

# りそな外為レポート

## りそな WEEKLY COLUMN

### りそな外為レポート

私が一番ツイッターをうまく使えるんだ！(P2)

チーフカスタマーディーラー  
井口慶一

今週のドル円予想レンジ **107.30 ~ 109.30**

### りそなWEEKLY COLUMN

東京ドルコール市場 (P3)

りそな銀行 総合資金部  
亀田 周平

- 東京ドルコール市場とは本邦銀行が外貨資金を運用調達するための市場
- ドルコール市場の動きによりドル建て融資の基準金利が決められる
- りんごやサンマのように場所や時期で金利が変動する

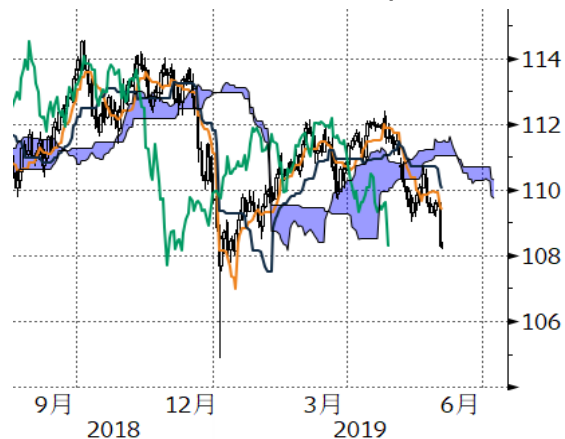
# りそな外為レポート

## 私が一番ツイッターをうまく使えるんだ！

今週のドル円予想レンジ **107.30 ~ 109.30**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

### ◆ドル円一目均衡表（日足）



### ◆為替相場のすすめ

先週は、28日に中国の共産党系機関紙の編集長がツイッターで「中国がレアアースの対米輸出規制を検討」と言及。これに闘志を掻き立てられたのか、ツイッターオリジンのトランプ大統領は、やらせはせん、やらせはせんぞ！とばかりに31日にやはりツイッターで「メキシコからの輸入品すべてに5%の関税を課す」と突如表明。リスクオフの動きが加速しドル円は108円台前半まで下落した。

日経平均は節目の2万1000円割れ、ダウも2万5000ドル割れ、米債利回りは下げ止まらず逆イールド環境が続くなど、ドル円を取り巻く外部環境はネガティブ。また貿易摩擦懸念に加え、英EU離脱や欧州政治不安、中東の地政学的リスクなどの懸念材料も台頭しており、明るい展望が描きにくい。ただし、6月下旬の大阪G20サミットでの米中首脳会談への期待感が今後浮上する可能性があることは留意しておくべき。輸入企業はこの円高局面のチャンスを最大限に活かしたい。ヘッジは常に2手3手先を読んで行うもの。生き延びることができるか。(チーフカスタマーディーラー 井口慶一)

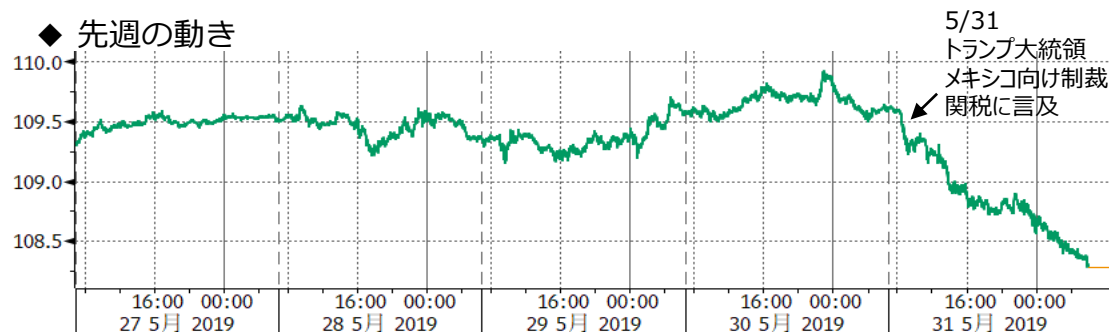
### ◆今週の日程

3日(月)	日	19/1Q法人企業統計調査	5日(水)	米	地区連銀経済報告
3日(月)	米	5月ISM製造業	6日(木)	欧	ECB理事会
4日(火)	米	シカゴ・カンファレンス(～5日)	7日(金)	米	5月雇用統計
4日(火)	欧	5月CPI	7日(金)	英	メイ首相保守党党首辞任
5日(水)	米	5月ISM非製造業	8日(土)	他	G20財務省・中央銀行総裁会議

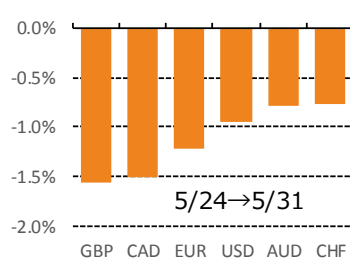
### ◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 31日(金) 108.29円 VS 7日(金)

東京											大阪			埼玉			
尾	中	湊	井	鳥	田	関	藏	加	佐	小	鈴	武	野	小	津	石	伊
股	根		口	井	中	口	重	藤	藤	池	木	富	瀬	林	田	井	藤
↑	↓	休	↓	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↑	↓	↑	↑	↑	↓

### ◆先週の動き



### 主要通貨対円パフォーマンス



出所: Bloomberg

◎注意事項  
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

# りそな WEEKLY COLUMN

## 東京ドルコール市場

- 東京ドルコール市場とは本邦銀行が外貨資金を運用調達するための市場
- ドルコール市場の動きによりドル建て融資の基準金利が決められる
- りんごやサンマのように場所や時期で金利が変動する

りそな銀行 総合資金部  
亀田 周平

### マーケットでは様々な商品が取引

「マーケット」や「相場」という言葉を聞くと、皆さんは何を思い浮かべますか？多くの方は、為替取引や株式取引だと思います。しかし、マーケットではその他にも様々な商品が取引されています。私が現在、担当している取引は、東京ドルコール市場における外貨資金取引です。

新聞やニュースでこのマーケットが表立って話題になることは少ないので、皆さんあまり馴染みがないのではないかと思います。実際私も、トレーニー時代、いくらググっても、このマーケットの値動きや情報が出てこなかったため、レポートを書くのにとっても苦労した思い出があります。

今回は、そんな地味だけど是非知っていただきたい東京ドルコール市場を少し紹介したいと思います。

### 東京ドルコール市場とは

東京ドルコール市場とは、本邦に拠点を置く銀行が、外貨資金(主に米ドル)の運用調達のために利用する短期金融市場です。外貨資金の余っている銀行が、不足している銀行へ外貨を貸し出し、その対価に利息を受け取る、といった取引が行われています。

本邦金融機関の多くは、お客さまとの預貸金取引の金利を決定する際、本マーケットの気配値を参照していると思われます。例えば、お客様に金利期間3か月の米ドル建て融資を行う際、本マーケットで3か月物米ドル金利が3.00%で取引されていれば、この水準が、融資金利を決定する際の基準になります。商品の仕入価格と考えるとわかり易いかもしれません。また、こうした取引から生じるリスクをヘッジするためのカバー取引も行われています。

### LIBOR金利との違い

ここで、少し詳しい方は、「3か月物米ドル金利って3M米ドルLiborのこと？」と考えるかもしれません。しかし、Liborは「London Interbank Offered Rate」の略で、「ロンドンの銀行間取引における、資金の出し手が提示する金利」という意味です。銀行間取引における資金貸借の金利であることには違いないのですが、米ドルLiborは、あくまでもロンドンの短期金融市場で形成される米ドル金利であって、東京ドルコール市場で形成される米ドル金利とは別物です。

# りそな WEEKLY COLUMN

## りんごで例えると…

全く同じ品質のりんごを、生産現場で直接購入する場合と、他地域のスーパーなど小売店で購入する場合とでは、後者の方が価格が高い傾向があるのと同じように、各通貨のマザーマーケットで外貨調達を行う場合と、東京マーケットで外貨調達する場合とでは、東京マーケットの方がコストが高くなる傾向があります。りんごの値段が生産現場で安くなる理由は、輸送コストが安いこと、りんごがたくさん収穫されても食べる人が少ないこと等です。資金の調達はりんごと違い、輸送コストは限られますが、マザーマーケットと比較して東京でのドルのニーズが高いことが、調達コストが高くなる一因と考えられます。

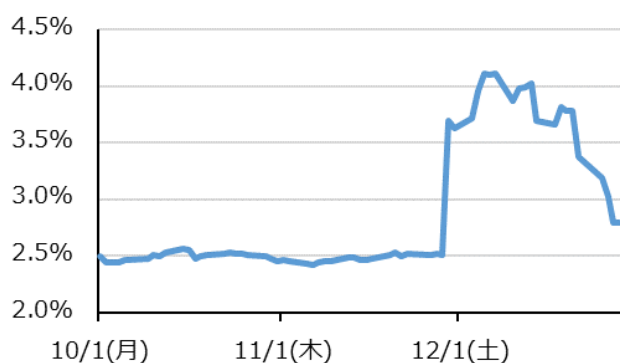
## ドルコール市場で見られる季節性

次に、東京ドルコール市場で良く見られる季節性についてお話します。金利は主に当該通貨に対する需給要因で変動します。需要が強まり、金利が上昇し易いタイミングは、四半期末や連休をまたぐときです。特に、年末を跨ぐタイミングでは金利が急上昇することが往々にしてあります。

左下図は、昨年の10月から年末にかけての東京ドルコール市場での1か月物金利の推移です。期日が年末を跨ぐタイミングになった途端、金利が急上昇していることがわかるかと思います。この四半期末や連休跨ぎのタイミングで金利が上昇することを「プレミアムが乗っている」といいます。なぜこのようなことが起こるのでしょうか？四半期末や年末は不測の事態に備え外貨資金を潤沢にしておきたいとの意向が働きやすいです。最近規制が厳しくなり、金融機関が期末時点の現金保有比率を高めようとすることも影響しています。

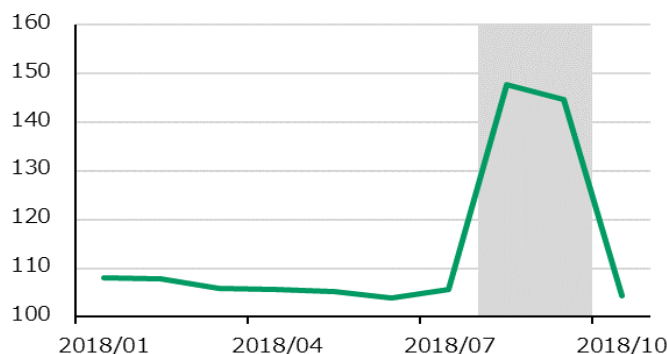
右下図はサンマの価格の推移です。金利の動きと似てますよね。サンマがたくさんエサを食べて、脂（プレミアム）が乗ったタイミングで、価格が急上昇しています。金利もサンマと同様に、期末ニーズの旬が過ぎると需要が弱まり、金利が低下します。私も20代後半となり、これから脂の乗る時期に差し掛かる中、一層仕事に精進して参ります。

東京マーケットにおける1か月物の金利推移



出所：ロイター

さんま価格の季節性（2015年=100）



出所：総務省